

職員研修計画

研修主題 「変化の時代を生き抜く思考力・判断力・表現力の育成」
～ICTの活用を通して～

1 主題設定の理由

(1) 児童生徒の実態から

本校の児童生徒の実態として、英国にある日本人学校という特殊性から、転出入児童生徒が多く、それぞれの出身地も多岐に渡っており、育ってきた文化や環境が異なる。そのため、多様な文化や他者に対して寛容で、優しい気持ちが育っている子どもが多い。また、家庭的に恵まれている児童生徒が多く、教師が言ったことを素直に受けとめ、実行できる子どもが多い。児童生徒の学力については、NRT（学力検査）の結果からも分かるように、各学年・各教科ともに概ね平均を超えている状況である。

つまり、本校の児童生徒は、基礎的な学力がついており、言われたことに素直に行動できる子どもが多いと言える。

(2) 社会的背景から

急速に進展するIT化社会（情報化社会）をたくましく豊かに生きていくためには、自ら考え、判断し、他者と共同しながら困難を乗り越え、価値の創造に挑む力が必要になる。児童生徒が成人して社会の一翼を担う頃には、社会や職業のあり方そのものが大きく変化している可能性が高い。そのような変化の時代において未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」を身につけ、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」が求められている。また実際の社会の中で生きて働くための知識・技能として、ICTを活用して他者と繋がり学ぶ姿勢、ICTを利用して自らを表現する技能を高めることが重要である。

児童生徒の実態、社会的背景・新学習指導要領の方向性を踏まえ、今年度の研修主題を「変化の時代を生き抜く思考力・判断力・表現力の育成」とした。また、サブタイトルとして、～ICTの活用を通して～とし、研修主題の達成の手段としてのICTの位置付けを明確化した。

(3) 目指す児童生徒像

高度情報化社会の時代を、そして今後の予測が難しい社会の変化をたくましく生き抜く力をもった児童生徒の育成が求められている。令和2年度に起きた新型コロナウイルスによる様々な社会的変化によって、児童生徒だけでなく我々も未知の状況に置かれた。しかし、そのような状況を、我々教職員は主体的に考え、判断し、協働を通して一つずつ乗り越えてきた。まさに我々教職員の「思考力・判断力・表現力」が発揮されたと考える。その私たちの姿そのものが、目指す児童生徒像につながるのではないだろうか。

よって、変化の時代を生き抜く「思考力・判断力・表現力」をもった児童生徒の育成を目指す。

2 本年度の研修の目的

(1) 研修の目的

『思考力・判断力・表現力の育成に有効なICT技術の運用方法の発掘・試行・検証』

(2) 目標設定の理由

① <ICT技術について>

ICT技術は、様々なハードウェア（PC、タブレット、スマホ、プロジェクタ、電子黒板）とソフトウェア（様々なアプリ）の組み合わせで成り立っている。ハードウェアは年々進化しているが、それよりはるかに速いスピードで、次々と新しいソフトウェアが登場している。この

日進月歩の技術革新に、個々の教員の経験や努力だけに頼るのではなく、教員チームとして高くアンテナを張り、知識や経験を共有していく。

② 〈ロンドン日本人学校の教員集団の強みと特性〉

ロンドン日本人学校の教員は、広く日本全国から集っている。さらには、それぞれが小学校、中学校という異なる文化をもつ職場での経験をもつ。そのことは、それぞれ異なる経験や技術をもった教員が集まっているという組織としての強みである。またすでに新たな ICT 技術を次々と授業に取り入れている教員も多いため、多彩な経験とノウハウを持った教員の集団であると言える。また、小中が併設されているロンドン日本人学校においては、授業対象の発達段階や教科による内容が大きく異なるため、共通の方法や内容での授業は難しい。そのため研究主題に幅をもたせ、共通の手立てとして ICT の活用を設定した。

3 研修の具体的構想

コロナ感染症によるオンライン授業の実施や分割登校の際に行われた各種 ICT 技術の導入や、全校レクレーション大会開催に際しての様々な ICT 技術の導入は、ロンドン日本人学校にとって輝かしい実績である。これらは全て非常事態において「必要に迫られて」という状況であったものの、今後の本校の ICT 技術導入において画期的な一歩であった。また、オンライン授業の実施においては特に小学部の教員を中心に様々な取組があり、保護者や児童生徒からも高く評価されていることはアンケートからも明らかである。加えて、コロナ感染症対策を契機に ICT の導入が一気に進んだことを受け、学校再開後も ICT を使った様々な指導法の試みがなされている。更には『flip grid』講習会が開かれるなど、ロンドンの教師陣も一層の関心をもって新しい指導法の開拓に臨もうという機運が高まっている。

上記に加え、来年度から 4 年生以上に iPad mini が配付されることもあり、日々新たな技術が導入される ICT 技術を積極的に指導に取り入れ、その成功や失敗を共有する枠組みをつくるのが研究部の使命の一つとすることが基本構想である。

4 研修体制

令和 3 年度は、以下の手順で研修を行う。

- ① 個別研修として、1 年間を通じ、それぞれの教員が積極的に ICT 技術を使用した授業を行う。小 4 以上では、新たに導入された iPad mini を使用した授業であることが好ましい。なお、全ての授業において ICT を活用する必要はない。
- ② 授業を行う際には、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の伸長に主眼をおくよう意識し、授業者としてどのような手立てを行い、どのような手応えがあったかについて記録する。
- ③ 授業を行った上での授業者としての所感をレポート（A4 用紙 1 枚程度）もしくは、他の方法（動画等）で記録し、教員間で共有する（下の(5)で詳述）。一人年間 1 回以上は行うものとし、上限は設けない。1 回の授業についてでも良いし、一連の取り組みについての報告でも良い。
- ④ 「失敗体験」も貴重な財産である。うまくいかなかった、手応えがなかった授業などを取り上げることは極めて有効である。このような経験を発信することで、他の教員の経験を他山の石とせず活かすことができる。または他の教員からさらに踏み込んだ支援を得られる可能性もある。
- ⑤ 共有の方法としては、以下の形が考えられる。
 - ・ 共有フォルダ内に PDF やその他の形式で保管し、閲覧できるようにする。
 - ・ 夏季研修やその他の職員研修で小学部や中学部での発表、または全体会での発表、検討会を行う。

ICT 技術は日進月歩の分野であり、今もてはやされている技術が数ヶ月後には陳腐化しているということも少なくない。そのため、形式にこだわるあまり小回りの利かない研修体制になるよりも、よりスピーディーでアクティブな形式での「生きた研修」を目指したいと考えている。そのため、研修の方法等についても、現実にそぐわない部分があれば、または状況が変化した場合は、適宜修正し、改良する意図をもっている。